

社会福祉法人健康の森学園 平成30年度 事業報告書

はじめに

社会福祉法人の使命を自覚し、共生社会の実現をめざし地域社会との連携を深める中で、開かれた活力のある施設に向けて運営を行った。また、利用者の地域生活への移行を進める上では、能力開発と人間性・社会性の養成に努めるとともに、自立と社会参加への意欲を高めて、主体的に活動できるように支援した。

1 理事会及び役員

(1)理事会開催状況

開 催 日	議 案
第1回理事会 平成30年4月10日 書面による決議 同意する 8名 同意しない 0名	第1号議案 理事の交替について 第2号議案 平成30年度第1回評議員会(書面表決)について
第2回理事会 平成30年5月10日 書面による決議 同意する 8名 同意しない 0名	第1号議案 理事長の選任について
第3回理事会 平成30年5月23日 出席理事 5名 出席監事 2名 欠席理事 1名	第1号議案 平成29年度の事業報告及び決算報告について 第2号議案 職務執行状況の報告について 第3号議案 施設長の交替について 第4号議案 評議員選任・解任委員の交替について 第5号議案 平成30年度社会福祉充実計画(案)について

	<p>第6号議案 監督官庁による検査結果について</p> <p>第7号議案 指定管理者の申請について</p> <p>第8号議案 定時評議員会開催の日程及び議案について</p>
<p>第4回理事会 平成30年6月18日 書面による決議 同意する 8名 同意しない 0名</p>	<p>第1号議案 業務執行理事の選定について</p>
<p>第5回理事会 平成30年7月6日 書面による決議 同意する 8名 同意しない 0名</p>	<p>第1号議案 双方代理契約の承認について</p>
<p>第6回理事会 平成30年12月21日 出席理事 6名 出席監事 2名</p>	<p>第1号議案 平成30年度収支補正予算案について</p> <p>第2号議案 新規サービスの追加について</p> <p>第3号議案 管理運営規程の改正について</p> <p>第4号議案 経理規程の改正について</p> <p>第5号議案 社会福祉充実計画の終了申請について</p> <p>第6号議案 評議員会の開催について</p> <p>報告 職務執行状況の報告について</p>

<p>第7回理事会</p> <p>平成31年3月14日</p> <p>出席理事 6名</p> <p>出席監事 2名</p>	<p>第1号議案</p> <p>平成30年度第2次収支補正予算案について</p> <p>第2号議案</p> <p>平成31年度事業計画及び収支予算案について</p> <p>第3号議案</p> <p>経理規程の改正について</p> <p>第4号議案</p> <p>評議員会の開催について</p>
---	--

(2) 役員氏名

平成31年3月31日現在(敬称略 就任順)

役 職	氏 名	当初就任日	備 考
理事	中 川 初 美	H15. 6. 1	新見市婦人連合協議会会長
理事	長 江 俊 忠	H17. 6. 1	元哲多町助役
監事	浅 井 郁 三	H19. 4. 1	前新見市森林組合長
監事	高 橋 満 子	H29. 4. 1	前新見市福祉部次長
理事長	黒 山 靖 弘	H30. 5. 1	岡山県健康の森学園長
理事	片 山 圭 子	H30. 5. 1	保健福祉部障害福祉課長
理事	加 藤 君 子	H30. 5. 1	岡山県健康の森学園支援学校長
理事	山 田 浩 久	H30. 6. 7	(社福)健康の森学園施設長

2 評議員会及び評議員

(1) 評議員会開催状況

開 催 日	議 案
<p>第1回評議員会</p> <p>平成30年4月25日</p> <p>書面による決議</p> <p>同意する 7名</p> <p>同意しない 0名</p>	<p>第1号議案</p> <p>役員の変替について</p>

<p>第2回評議員会(定時)</p> <p>平成30年6月7日</p> <p>出席評議員 6名</p> <p>欠席評議員 1名</p>	<p>第1号議案</p> <p>平成29年度の事業報告及び決算報告について</p> <p>第2号議案</p> <p>職務執行状況の報告について</p> <p>第3号議案</p> <p>役員の交替について</p> <p>第4号議案</p> <p>平成30年度社会福祉充実計画について</p> <p>第5号議案</p> <p>監督官庁による検査結果について</p> <p>第6号議案</p> <p>指定管理者の申請について</p>
<p>第3回評議員会</p> <p>平成31年1月23日</p> <p>出席評議員 6名</p> <p>欠席評議員 1名</p>	<p>第1号議案</p> <p>平成30年度収支補正予算案について</p> <p>第2号議案</p> <p>新規サービスの追加について</p> <p>第3号議案</p> <p>管理運営規程の改正について</p> <p>第4号議案</p> <p>社会福祉充実計画の終了申請について</p> <p>報告</p> <p>職務執行状況の報告について</p>
<p>第4回評議員会</p> <p>平成31年3月25日</p> <p>出席評議員 7名</p> <p>欠席評議員 0名</p>	<p>第1号議案</p> <p>平成30年度第2次収支補正予算案について</p> <p>第2号議案</p> <p>平成31年度事業計画及び収支予算案について</p>

(2) 評議員氏名

平成31年3月31日現在（敬称略 就任順）

役 職	氏 名	当初就任日	備 考
評議員	竹 元 武 士	H16. 3. 24	元哲多町長
評議員	大 原 天 津 夫	H16. 3. 24	元神郷町長
評議員	小 原 安 子	H16. 3. 24	元小学校長
評議員	大 前 元 樹	H22. 3. 24	元保護者会会長
評議員	公 文 裕 巳	H28. 3. 24	新見公立大学長
評議員	池 田 一 二 三	H29. 4. 1	新見市長
評議員	中 田 省 吾	H29. 4. 1	前新見市教育長

3 実施事業名と職員状況

(1) 事業所名

- | | | |
|----------------------|------------|--------|
| ① 岡山県健康の森学園障害者支援施設 | (指定管理) | 定員 35名 |
| ② 岡山県健康の森学園就労継続支援事業所 | (指定管理) | 定員 20名 |
| ③ 健康の森学園共同生活援助事業所 | | 定員 51名 |
| ④ もりっこ | 児童発達支援 | 定員 10名 |
| | 放課後等デイサービス | 定員 10名 |
| ⑤ 健康の森学園短期入所事業所 | | 定員 3名 |
| ⑥ 健康の森学園相談支援事業所 | 特定相談支援 | 定員 / 名 |
| | 障害児相談支援 | 定員 / 名 |

(2) 職員の状況（嘱託医、グループホーム世話人・生活支援員は除く）

平成31年3月31日現在

区 分	現 員			備 考
	正規職員	常勤 臨時職員	非常勤 臨時職員	
施設長	1			管理者・サビ管兼務
管理者	4(兼務1)			
サービス管理責任者	1(兼務3)			管理者兼務3
児童発達支援管理責任者	(兼務1)			管理者兼務1
相談支援専門員	1(兼務1)		1	管理者兼務1
生活支援員	3	2	7(兼務1)	
職業指導員	2	1	3	
就労支援員	1			

目標工賃達成指導員	1			
保育士	1	1	1(兼務1)	相談支援専門員(兼務1)
児童指導員・指導員	(兼務1)	1	(兼務2)	相談支援専門員(兼務1) 事務員(兼務2)
看護師	1			
栄養士		1		
事務員	2		2	
宿直員			3	
障害者自立支援員	1			新見市へ出向
合 計	19	6	17	合 計 42名

4 業務執行状況

(1) 業務内容

- ①知的障害者の基本的な生活訓練及び指導
 - ア 利用者支援の充実
 - イ 生活訓練の充実
 - ウ 健康衛生・安全指導の充実
- ②知的障害者の社会参加の促進
 - ア 地域生活への移行の促進
 - イ 経験の拡大と余暇支援の充実
- ③知的障害者の就労に必要な適応訓練及び指導
 - ア 作業訓練の充実
- ④児童発達支援における療育
 - ア 利用者支援の充実
- ⑤県民に対する啓発の促進
 - ア 地域社会との連携
- ⑥その他、知的障害者の自立の促進に関し必要な業務
 - ア 職員資質の向上
 - イ 保護者等との連携

(2) 業務執行状況

- ①知的障害者の基本的な生活訓練及び指導
 - ア 利用者支援の充実
 - ・個別支援計画に基づき、自立訓練と就労移行支援では3ヶ月毎に、また就労継続支援B型では6ヶ月毎に、個別支援計画のモニタリングを行い、計画の進捗度や課題などについて、保護者を交えて懇談を行い、現状に適応した個別支援計画の作成を行

った。

- ・サービス内容、環境設備、職員の対応等について利用者アンケートを行い、改善点等について職員間で共通認識を持ちサービス向上に向けての意識を高めた。
- ・外部の各種研修会に参加し、専門的知識を高め、施設内研修で関係職員との共通認識を図った。
- ・毎月、施設会議、班会議、個別支援会議等を開催して、作業面と生活面における支援の充実について検討した。
- ・毎月1回の学習の時間の中で、社会生活に必要な知識（性教育、社会ルール、安全、食事マナー、歯磨き等）習得のための支援を行った。

イ 生活訓練の充実

- ・障害者支援施設において、生活訓練の時間を設定し、毎日30分程度の洗濯、掃除、衣類整理等の生活技術についての支援を行い、生活力の向上を促した。
- ・4ヶ月に1回の買い物訓練を実施し、公共機関の利用体験や生活に必要な衣類等を自分で購入する練習を行い、地域生活に向けた支援を行った。

ウ 健康衛生・安全対策の充実

- ・毎朝の作業開始前に利用者の健康観察を行い、個人ごとの体調を確認した上で作業を行った。
- ・定期健康診断を2回、内科検診を2回、歯科検診を1回実施し、利用者の健康管理に努めた。
- ・寮舎において、ダニ駆除やインフルエンザ対策を行い、衛生管理に努めた。
- ・昨年11月には、ノロウイルスによる感染症が発生し感染者2名、体調不良を訴えた利用者が4名出たが、早急に嘱託医、備北保健所からの指示に対応し、感染の拡大を防いだ。
- ・毎月1回、火災や地震を想定した避難訓練を実施した。また、毎月10日を安全点検の日として危険箇所の点検と修繕を行った。
- ・消防署職員を講師に迎えて心肺蘇生法研修を行った。また、不審者への対応訓練を実施して緊急時に備えた。

② 知的障害者の社会参加の促進

ア 地域生活への移行の促進

- ・「すずらんハイツA」「すずらんハイツB」「あじさいハイツ」「日の出ハイツの」の利用者に対して、生活支援員5名を配置して地域での手厚い生活支援が提供できる体制を整

えた。

- ・現在3名が生活しているサテライト住居を、生活支援員が定期的に訪ねて見守り支援を行うとともに、世話人による食事の提供、調理指導、金銭管理の支援を行い、一人暮らしに向けた支援を行った。
- ・通所のために利用している市営バスに生活支援員が定期的に同乗して、乗車中の安全の確保や公共の場でのマナー習得に向けて支援を行った。また、休日に関しては、地域の情報提供を行い、地域行事への参加など余暇支援を生活支援員の付き添いで行った。
- ・施設入所者のグループホームへの体験利用を積極的に受け入れ、地域での生活をする中で、地域移行に向けての意欲向上に繋がった。

イ 経験の拡大と余暇支援

- ・田植え祭り、夏の集い、運動会、収穫祭、マラソン大会、学習発表会や障害者スポーツ大会(陸上競技、フライングディスク、フットベースボール)に参加して、交流と経験を深めた。
- ・第1、3、5の土曜日の午前中にスポーツ、音楽、手芸・芸術のサークル活動を実施して、経験の拡大に繋がった。
- ・商業施設やイベント等の地域の情報を提供し、単独外出及び職員引率外出により、余暇の充実が図れるよう支援した。また、日帰り学習では社会体験を通して公共施設の利用マナーについて理解を深めた。

③ 知的障害者の就労に必要な適応訓練及び指導

ア 作業訓練の充実

- ・各活動班では、特産品栽培に取り組んでおり農産・園芸班では「リンドウ」、畜産・果樹班では「哲西栗」、林産・家事生活班では「ジャンボ椎茸」栽培の活動を通して地域農家との交流また、高品質の生産物を販売することで、作業意欲の向上に繋がった。
- ・1月あたりの工賃として、障害者支援施設の自立訓練事業(畜産・果樹班)では8,000円を、就労継続支援B型事業(畜産・果樹班)では9,000円を、就労移行支援事業(農産・園芸班)では17,000円を、就労継続支援B型事業所(林産・家事生活班)では25,300円を各利用者に支給し、働く事の喜び・就労に向けての意欲を高めた。
- ・外部講師(元天満屋教育担当者)による接遇マナー講習会を開催して、利用者と職員が参加して言葉遣いや礼儀作法について知識を深め社会性の向上を図った。また、ハローワークの実施する企業面接会、職場見学会などに参加することで、身近に働くという

ことを体験し、就労に対しての意欲の向上に繋げた。

- ・就労を目指して、一般企業での職場実習を行い、仕事に対しての体力・意欲・持続力の向上に努めた。その結果一般企業に5名が就職した。

④ 児童発達支援における療育

ア 利用者支援の充実

- ・就学前の児童発達支援、就学後の放課後等デイサービスにおいて、利用児童の達成感が得られる課題を設定し、活動を通して自信がつくよう支援を行った。
- ・保護者支援として、年2回の研修会及び茶話会を実施し、家庭の支援を行った。

⑤ 県民に対する啓発の推進

ア 地域社会との連携

- ・市内のアンテナショップ「森のおみせ」では、学園で生産した野菜や工芸品の販売を通して、学園での活動の様子を地域に紹介した。また、販売を通して、地域住民との交流も深まり、障害に関する理解・啓発に取り組んだ。
- ・すずらん祭り、納涼祭等の地域行事に参加して、地域住民との交流を深めた。また、新見福祉フォーラムや障害者週間街頭キャンペーンに参加して、他施設の利用者とともに発表や啓発キャンペーンを行った。
- ・新見市障害者地域活動支援センター（ほほえみ広場にいみ）に、障害者自立支援員として1名の職員が出向して、在宅生活者と家族の支援を行った。
- ・相談支援事業所では、在宅障害者が地域の生活を継続できるように、課題・ニーズを把握して、関係機関との福祉サービス調整を行った。
- ・県内の大学生を対象にして養護実習者の受け入れを積極的に行い、知的障害者への支援を通して理解・啓発の推進に繋げた。

⑥ その他、知的障害者の自立の促進に関し必要な業務

ア 職員資質の向上

- ・県内外の研修会に参加し、福祉情勢や他施設の状況について研修を深めた。また、復命後は資料回覧と職員研修会で報告を行い、共通認識を図った。
- ・利用者に対する自分自身の言動についての振り返りを促すために、サービス向上委員会を開催して、職員による虐待や人権侵害の防止について、セルフチェック表により共通認識を深めた。
- ・学園全体の研修会では発達障害、人権・道徳に関する研修会に参加し、共通認識を深めた。
- ・各活動班では、作業種目毎に担当者を定めており、栽培技術の向上、高品質の

生産物栽培を行うため関係機関の行う研修会に参加した。

- ・岡山県労働基準協会より講師を招き、作業中における事故防止についての職員研修を行った。

イ 保護者等との連携

- ・担当職員との個別懇談会を実施し、利用者の個別支援計画について保護者と職員の連携を図った。また、保護者会を組織しており、利用者の活動に協力いただくとともに、希望や意見を聞き事業改善を図った。
- ・定期的に保護者会を開催して、施設の活動状況を報告するとともに、給食試食会及び保護者作業日を設定して保護者との連携に努めた。
- ・双葉会（施設と学校の保護者会）の主催行事である「夏の集い」では、施設と学校の保護者、職員、園生及び同窓生同士の交流を図った。